

私は 2019 年の春休みに 1 か月間南ボヘミアに留学しました。現地のチェボニーという街に住み、平日は多くの学校で日本の文化を紹介する授業や日本語講座を行ったり、特産品であるボヘミアングラスの制作・絵付け体験をしたりと、濃密な日々を過ごしました。また、週末はスーパーで買った珍しい食材とにらめっこしながら料理を作ったり、現地でできた友人と観光に出かけたりしました。

授業時間がたくさんある中で外国人相手に行う授業は大変です。また、放課後や休日の過ごし方は基本的に自由なので、ほぼ自分たちでスケジュールを組むことになります。慣れない土地でのこうした生活は、もちろん楽しいことばかりではありませんでした。しかし逆に考えれば、このプログラムでは、自分の行動次第で興味のある分野ややりたい事を好きなだけ深められると思います。特に私はヨーロッパの食文化や城に興味があったので、様々な料理や食材を食べたり、チェスキー・クルムロフ城をはじめとする様々な城を訪れたりして、知見を深めることができました。留学中に起こる課題に試行錯誤しながら取り組む過程で身に付いたやり抜く力や積極性は、今も役立っていると思います。

多文化交流実践研修では、留学中の過ごし方や近隣施設の紹介に加え、首都プラハなどチェボニー以外の街を紹介しました。学生の多くがチェコやヨーロッパに興味を持っており、授業後も様々な質問を受けました。私が留学を決めた当初はチェコという国についてほぼ知識がなかったため、こうした留学経験者による報告の場は、チェコやヨーロッパを知る上でも、これからの留学をより良いものにする上でも、とても貴重だと思います。ぜひ学生の方にはこうした機会を活用し、異文化への興味を深めてほしいと思います。